

筑後市社会福祉協議会 / 広報

人として

筑後市社会福祉協議会

(〒833-0032 筑後市野町680-1)

TEL 52-3969

FAX 53-6677

Mail info@chikugo-shakyo.or.jp

URL http://www.chikugo-shakyo.or.jp

私たちの手で 私たちのまちを 福祉のまちに…それが社会福祉協議会の目標です。

筑後市母(父)子寡婦福祉会

同じひとり親で子育ての悩みを相談し合える

友達ができました



▷令和4年度くろーばーサロン (いちご&トマト狩り)

筑後市母(父)子寡婦福祉会(以下、母子会)では、ひとり親のお父さんお母さんと、かつてひとり親であった寡婦の皆さんが様々なイベントを通して、交流したり、情報共有などをおこなっています。

現在、母子部約40世帯、寡婦部約30世帯の会員がおります。母子部のお父さんの年齢も保育園・幼稚園・社会人・大学生までさまざま(下記グラフ令和4年4月現在)。

今年度は、学習会を兼ねた食事会やバスハイイク(佐賀県立宇宙科学館)、クリスマス会などのイベントを行いました。

そんな母子会会員の方へ母子会に入って良かったことなどを聞きました。

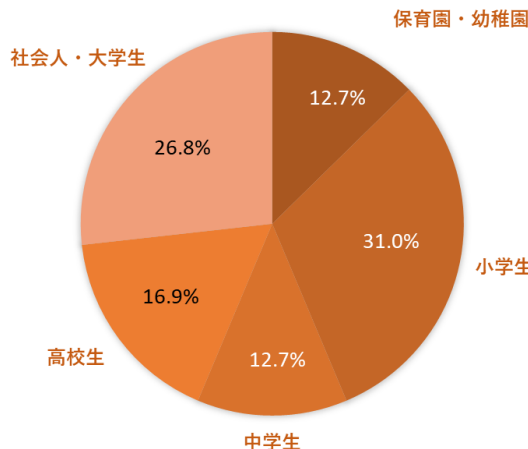
イベントを楽しみに

- 子どもが毎年バスハイイクとクリスマス会を楽しんでいます。
- お友達とイベントを楽しんでいる姿をみるのが嬉しいです。

子どもがいろんなことに

興味をもつように

- 親子だけでは、遠出は大変なので母子会のバスハイイクがあるのが助かります。
- バスハイイクで水族館や科学館に行き、子どもがいろんなことに興味をもつようになりました。
- 同じひとり親の方に子育ての悩みを相談したり、情報共有できるのが嬉しいです。



2面に続く

▷ 令和4年度バスハイク
(佐賀県立宇宙科学館)



● 友達ができたり、親子だけではできない体験ができて、楽しく過ごせるようになりました。
● 会員の方みなさん優しいので、助けられることも多いです。人見知りでも大丈夫です！
● 外出する機会が増え、同じひとり親の方と話せるので良かったです。

随時会員募集中!!

年会費
1,000円 (4月～3月)

申込み・問合せ
筑後市母(父)子寡婦福祉会
筑後市社会福祉協議会
TEL:0942-52-3969
FAX:0942-53-6677

「友人の紹介」、「イベントに参加したくて」、「広報をみて」など加入のきっかけはさまざまです。子育てに家事に仕事…と沢山頑張っているひとり親のお父さん・お母さん。母子会に入会し、お子さんと楽しい時間を過ごしませんか？



◀ クリスマス会 (ビンゴ大会)

ひきこもり家族相談会

とき 2月16日(木) 13:00～16:00
★2月9日(木) 17時までに要予約
(1日限定3名・匿名可)★原則来所での相談

ところ 筑後市総合福祉センター(野町680-1)

ひとり親家庭を応援！

フードパントリー
＜食料品の無料配布＞

筑後市社会福祉協議会では、お米、インスタント食品、缶詰、お菓子等の食品を無料配布します。必要な方は、ご遠慮なくお越しください。
★数に限りがありますので、先着順とさせていただきます。

精神障害のある人のための
居場所・交流スペース **かたる～む**

★2月の開設日のお知らせ★

とき 2月10・24日(金) 13:30～15:00
★予約不要・時間内出入り自由

ところ 筑後市総合福祉センター(野町680-1)

対象：平成12年4月2日以降
生まれの子がいるひとり親家庭

配布時期：2月6日(月)～9日(木)
午前9時～午後6時
2月10日(金)
午前9時～午後5時

配布場所：筑後市総合福祉センター

- ・事前の申込みは不要。
- ・仕事の都合等で来所が困難な方は、左記へご相談下さい。
- ・期間中1世帯1回限り

筑後市社会福祉協議会

**問合せ
申込み**

TEL 52-3969 FAX 53-6677
Mail info@chikugo-shakyo.or.jp

グリーンフードパントリー
＜野菜の無料配布＞も実施中!

公式LINEにてお知らせしています。

令和4年度 赤い羽根共同募金実績

10月1日から市民の皆さんにご協力いただいた「赤い羽根共同募金」と「歳末助け合い募金」。それぞれの実績と配分金をご報告いたします。

共同募金

●戸別(世帯)募金	6,087,483円
●資材(世帯・職域)募金	514,187円
●法人募金	2,012,000円
●個人募金	1,503,988円
●職域募金	145,006円
●街頭募金	25,869円
●その他の募金	52,989円
★合計	10,341,522円

※資材募金とは、ボールペン・図書カード等の購入による募金のことです。

ご協力ありがとうございました

皆様からのあたたかいご寄付は「住んでよかった」と思えるまちを目指した地域福祉活動の推進のほか、被災地の支援・見舞金に活用されています。

歳末助け合い募金

●歳末助け合い募金	1,457,301円
●善意奉仕銀行より繰り入れ	20,699円
★合計	1,478,000円

歳末助け合い募金配分報告

▼支援を必要とする世帯	846,000円
▼在宅ねたきり高齢者	72,000円
▼在宅心身障害児(者)	560,000円
★合計	1,478,000円

(※)宮田織物様から頂いたはんでんは、在宅ねたきり高齢者世帯に配布させて頂きました。

令和5年度 在宅福祉課 職員募集

- 雇用形態 嘱託職員 1~2名程度
- 資格要件 ①~⑥のいずれかの資格保持・普通自動車免許保持
①介護支援専門員
②相談支援専門員
③精神保健福祉士④社会福祉士
⑤介護福祉士⑥ヘルパー2級相当
- 業務内容 相談支援業務・ホームヘルパー業務など
- 賃金 ①~⑤201,200円⑥190,400円
通勤手当、その他手当、賞与あり
- 試験 令和5年2月25日(土)午前中
○作文、面接
※詳細は後日通知
- 申込締切 令和5年2月17日(金)必着
下記へ履歴書と資格証明書の写しを郵送か持参
- 採用日 令和5年4月1日(土)
- 問合せ 筑後市社会福祉協議会
在宅福祉課
〒833-0032 筑後市野町680-1
TEL0942-52-9016

赤い羽根自販機設置者募集!



赤い羽根自動販売機は、売り上げの一部を共同募金へ寄付するもので、寄せられた募金は、市内のさまざまな地域福祉活動に使われています。

設置の主なメリット

- ・簡単な手続きで社会貢献活動ができ、企業のイメージアップに繋がる
- ・設置・置き換えの費用は基本無料
- ・設置後の寄付の事務処理は不要
- ・最新機種で電気代、CO2の削減に!

今ある自販機を変更することも可能です。

手続き・お問合せ

福岡県共同募金会筑後市支会
TEL:0942-52-3969 FAX:0942-53-6677



社会福祉事業資金寄付

★ 香典返し寄付の部 ★

江崎 玲子様 (故 宗也様) 島田
 稲富 三千雄様 (故 ツグ工様) 長浜
 田川 チツ子様 (故 正文様) 鷲寺
 中村 政喜様 (故 ヨソノ様) 欠塚
 水町 崇宏様 (故 千晴様) 野町
 山口 幸子様 (故 肇様) 富重

★ 一般寄付の部 ★

○筑後市美術協会様から現金の寄付がありました。

★ 計 一八〇、〇〇〇円

善意奉仕銀行寄付

● 預託の部 (物品口座)

○匿名様(3件)より米、玄米の寄付がありました。

○ユーコーラッキー筑後店様(長浜より)お菓子の寄付がありました。

○野田製菓様(八女市より)黒棒の寄付がありました。

○前津シニアクラブ寿会の匿名様より紙オムツの寄付がありました。

○匿名様より紙オムツの寄付がありました。

子育て世代を食で応援!



プロジェクト

市民の皆様から寄付いただいた食品(お米、インスタント食品、乾麺、調味料、フリーズドライスープ類など)を無料配布します。

日程: 2月10日(金) 18:00~19:00

対象: 小中学生の子どもがいる世帯

※数に限りがあります

※1世帯1セットの配布です

※筑後市在住の方に限ります

※ひとり親家庭の方は除きます。毎月第2週目に実施する「ひとり親家庭のためのフードパントリー」をぜひご利用ください。

会場: 筑後市総合福祉センター

○事前の申込みは不要です。直接お越しください。

問合せ / 筑後市社会福祉協議会

TEL 52-3969 FAX 53-6677

Mail info@chikugo-shakyo.or.jp



筑後市美術協会様から 現金の寄付

チャリティー作品展の売り上げの一部をご寄付頂きました。

【いずれも2月1日~2月31日まで】

○匿名様(5件)より野菜、飲料、缶詰などの食品の寄付がありました。

○匿名様より食品、金券、本の寄付がありました。

精神障害の本人と家族の会

ひまわりのつどい

リフレッシュヨガを体験してみませんか?

と き 2月19日(日) 10:00-12:00

と ころ 筑後市総合福祉センター

講 師 MAKIさん

内 容 リフレッシュヨガと意見交換

申込み 筑後市社会福祉協議会
 TEL:52-3969 FAX:53-6677



事務局通信

年末年始、地元へ帰り、元旦には久しぶりに、山奥にある氏神様にお参りへ行きました。子どもの頃は、時々父についていていました。元旦には、地域の人が集い、焚火を囲んで、かつぼ酒を呑んで、おしゃべりしていたのを子どもながら眺めていた記憶があります。

その慣習も、高齢化により地域の人が山に登ることも難しくなり、なくなってしまうそうです。

せっかく登ったのでと、溜まっていた落ち葉を掃きながら「この階段は、自分たちで作ったとよ」「山道の落ち葉を下まで地域の人で手分けして掃除しよったとよ」という両親の話の聞きました。

きっと大変なこともあったと思います。でも昔の人は、地域の人で集まることを楽しんでたんだと思います。そして、地域の繋がりは、そういうところでも生まれてきたんだらうなとも思いました。

綺麗になった山道を見て、スッキリした気持ちで下りてきました。変わっていくことも多いですが、地元を離れていても、楽しみながら出来ることはあるかもしれない。そう感じたお正月でした。

(実)